

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	平成30年度 第4回入間市総合教育会議
開 催 日 時	平成31年3月14日(木) 午前10時00分 開会、正午 閉会
開 催 場 所	市庁舎B棟5階 第4委員会室
議 長 氏 名	-
出席委員(者)氏名	市長 田中龍夫 教育長 西澤泰男 教育長職務代理者 河村佳樹 教育委員 高山茂 教育委員 橋本清美 教育委員 山本和人
欠席委員(者)氏名	-
説明者の職氏名	公共施設マネジメント推進課長 浅見泰志 こども支援部長 鳥山政之 こども支援部次長 原嶋裕子 こども支援部副参事(児童発達支援担当) 中村正幸 こども支援課長 横田一洋 教育部参事兼学校教育課長 松本武雄
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	(すべて公開) 1. 開 会 2. 挨 拶 3. 協議・調整事項 (1) 子ども・青少年施策に係る事業の推進方向について (2) 要保護児童対策について (3) その他 4. 報告事項 (1) 「公共施設マネジメント事業計画」及び「市役所等整備計画」市民説明会の実施結果について 5. その他 6. 閉 会
傍 聴 者 数	なし

配 布 資 料	<p>資料１：（仮称）入間市子ども・若者育成支援計画の策定について</p> <p>資料２：児童発達支援センター設置検討の状況について</p> <p>資料３：学校・教育委員会の対応（取り組み）について</p> <p>資料４：市（要対協含む）の対応（取り組み）について</p> <p>資料５：児童虐待対応マニュアル</p> <p>資料６：公共施設マネジメント事業計画（原案）及び市役所等整備計画（原案）に関する市民説明会について（報告）</p> <p>資料７：市民説明会における主な意見（公共施設マネジメント事業計画）</p> <p>資料８：市民説明会における主な意見（市役所等整備計画）</p> <p>追加資料：青少年関連団体（子ども会育成会連絡協議会、青少年相談員協議会）の現状と課題について</p>
関係者職氏名	<p>○総務部</p> <p>公共施設マネジメント推進課長 浅見泰志</p> <p>○こども支援部</p> <p>こども支援部長 鳥山政之、こども支援部次長 原嶋裕子</p> <p>こども支援部副参事（児童発達支援担当） 中村正幸</p> <p>こども支援課長 横田一洋</p> <p>○教育部</p> <p>教育部長 新見輝明、教育部次長 関谷佳代子</p> <p>教育部参事兼学校教育課長 松本武雄</p> <p>教育総務課長 鹿山泰隆、教育総務課主幹 千葉茂</p>
事務局職員職氏名	<p>○企画部</p> <p>企画部長 加藤保夫、企画部次長 浅見嘉之</p> <p>企画部参事兼企画課政策推進室長 岩田正博</p> <p>企画課政策推進室副主幹 森正行、企画課政策推進室主任 小畠秀章</p>
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過) ・ 決 定 事 項

<協議・調整事項>

(1) 子ども・青少年施策に係る事業の推進方向について

子ども会の在り方については、今後の検討課題であり、市として検証していく必要があることを確認した。

入間市子ども・若者育成支援計画の策定にあたっては、総合教育会議での意見を踏まえるとともに、定期的に進捗状況の報告を行うこととなった。

(2) 要保護児童対策について

千葉県野田市で小学校4年生の女子児童が虐待により死亡した事件を受け、市及び教育委員会それぞれの立場で現在の対応を再確認し、さらなる対策に取り組んでいくこととした。

<報告事項>

(1) 「公共施設マネジメント事業計画」及び「市役所等整備計画」市民説明会の実施結果について

1月～2月に実施した市民説明会の市民の意見について、公共施設マネジメント推進課より説明を行った。

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
	(委員及び事務局の発言が行われた部分のみ記述する)
	<進行：加藤部長>
	1. 開会
	2. 挨拶
	3. 協議・調整事項
加藤部長	(1) 子ども・青少年施策に係る事業の推進方向について 議題についてこども支援部より説明願う。
鳥山部長	それでは「子ども・青少年施策に係る事業の推進方向について」、資料 に沿って説明する。 (資料1及び追加資料を説明)
中村副参事	(資料2を説明)
加藤部長	ただいまの説明を踏まえ、議題について意見交換を行う。何か意見等あ るか。
田中市長	青少年相談員はどうやってなるのか。推薦等行っているのか。
鳥山部長	基本的には青少年相談員の活動(青少年の船等)の中で、人材を見つけ て相談員が推薦を行っていることが多い。また、青少年活動センターで活 動団体の中から声掛けを行っている例もある。しかし、他の団体からの推 薦などはあまり例がない。

発 言 者	発 言 内 容
田中市長	<p>子どもが参加する大会やイベント等いろいろ出席しているが、入間市の子どもたちは自分たちで考えて行動しており、よく育っているように感じられる。現場の実態はどうか。</p>
西澤教育長	<p>学校外の地域の行事等で、ボランティアを行っている子どもたちが多い。大人が子どもたちを認め、子どもが活躍する場があるということが子どもの育ちに繋がる大きな要因であると感じている。</p>
田中市長	<p>子どもたちは、剣道や野球、ミニバス、サッカー等いろいろなクラブやサークルに入り活動している。そんな中、子ども会が本当に必要なものなのか、市として子ども会の存続（必要性）を真剣に検証していく必要があると考えるが、担当の見解はどうか。</p>
鳥山部長	<p>子ども会の活動は、社会教育活動と非常に密接な関係がある。社会教育活動とこども支援部の活動を一体として捉え、今後の子ども会の在り方について検討していく必要があると考えている。</p>
田中市長	<p>教育委員会のノウハウを引き継ぎ、子ども会活動にスポットを当てて考えていかなければいけない。</p>
鳥山部長	<p>社会教育部門に提起しながら、一緒に行っていければと考えている。</p>
西澤教育長	<p>入間市子ども・若者育成支援計画を策定するのであれば、その中で青年相談員やジュニアリーダー、子ども会（育成会）等について明確に位置付けた方が良いのではないかと考える。また、18歳くらいまでを対象としているようだが、あまり年齢を制限しない方が良く考える。</p>

発 言 者	発 言 内 容
鳥山部長	<p>次期入間市子ども・子育て支援事業計画及び児童発達支援センター関連については、児童福祉法に基づき18歳くらいまでを対象としている。また、入間市子ども・若者育成支援計画については、概ね30歳くらいまでを支援の対象としている。支援を取り巻く環境整備については、年齢を幅広く考えていく必要があるということを課題として認識し、今後検討していきたい。</p>
山本委員	<p>子ども会は何を行うのが重要かということを考えると、社会参画の基礎を作る部分であり、自分たちで考え自分たちで行動するというのが本来の姿であると考え。しかし現在は、親が計画・実行するなど、子ども会が子から親へシフトし、その結果、親の負担が増え、やりたがらないという現象が起こっている。本来、子ども会は地域の中にあり、子ども中心に行っていかなければいけない。</p> <p>子どもたちはクラブやサークル活動等いろいろな活動を行っており、子どもたちの取り合いのような状態が続いてしまっている。市長が言うように子ども会の在り方について考えていく必要があり、社会教育活動とリンクさせていくことが良いのではないかと考える。</p>
橋本委員	<p>藤沢地区では、保護者が役員をやるのが非常に負担になるため子ども会がなくなった。かわりに、民生委員、区長、地域包括支援センター、大学の先生、PTA会長等の地域に貢献している方を中心に未来ネットワークというものを立ち上げた。さまざまな分野で各学校にボランティア派遣を要請しており、毎回、要請のニーズをはるかに超えたボランティアスタッフが集まってくれる。夏休みになると、中学生ボランティアが小学生の宿題等を教えるというようなことも行っており、少し異なった子ども会のような活動をしている。子ども会で実施していたカルタ大会を未来ネット</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>ワークで行う等、地域の横のつながりを大切に、子ども会とは異なった形で、ジュニアリーダーを育成するなど活動を行っている。</p>
加藤部長	<p>活動は自発的に行っているのか。</p>
橋本委員	<p>毎月、定例会の日程だけは決めているが、出席者や役員等について制約は設けていない。自発的に参加できる人が集まっている団体であり、そのメンバーで会議を行っている。</p>
田中市長	<p>立ち上げのきっかけは区長会長か。</p>
橋本委員	<p>そのとおりである。将来的には市内9地区での立ち上げを目指している。</p>
西澤教育長	<p>先ほどカルタ大会の話があった。市子連（入間市子ども会育成会連絡協議会）が主催で行っているため、加入していないと参加できないと思われるが、何か対策はあるのか。</p>
鳥山部長	<p>これまで藤沢地区は子ども会がないため子ども会には参加できなかったが、昨年度から藤沢地区の子どもが豊岡地区のチームに加入するというような形での参加が可能となった。</p> <p>未来ネットワークで取り組むカルタ大会については未調整だが、市子連（入間市子ども会育成会連絡協議会）の役員がカルタの指導に伺いながら調整を行うので、今後は参加できる形になると思われる。</p>
加藤部長	<p>藤沢地区には、子ども会は1つも存在していないのか。</p>

発 言 者	発 言 内 容
鳥山部長	<p>現在は1つもない。昨年まで藤沢南小学校に1つだけあったが、それもなくなった。そこで役員をやっていた方が、区長会長に相談したことが未来ネットワークのきっかけとなっている。</p>
田中市長	<p>子ども会については原点に戻って、先ほど山本委員が言ったように、子どもたちが自発的に取り組むように今後研究していく必要がある。</p>
高山委員	<p>カルタ大会を見ていても感じたが、子どもの数がずいぶんと減少している。そんな中、多くのことを取り組んでもうまくいかないのが、現状に見合った施策を展開していく必要がある。また、同じような事業が非常に多く行政の大きなロスとなっているので、関係部署でうまく連携をとって事業を効率的に行っていく必要がある。</p> <p>子ども会も含め、さまざまな会の加入率が減っている。人口減少など理由は多々あるが、価値観の変化が大きいのではないかと。集団より個の時代となっていること、また、地元に残る若者が少なくなっていること、こうした変化にもしっかりと着眼していかなければならない。</p>
加藤部長	<p>同じような事業が多いということは市全体に言えることでもあるので、市と教育委員会でしっかりと連携を図りながら、今後見直していきたい。</p>
河村委員	<p>先日、市民活動センターで開催された、いるま子ども・子育てフォーラムの中で子どもの貧困実態調査の報告が行われた。子どもの貧困について、いろいろな課題がある中、解決策が示されていなかったように感じる。ので、解決に向けての具体的な方法、手段が見えてくると良いのではないかと。</p> <p>子ども会の衰退についての大きな原因は、家庭力の低下だと考えている。本来は、学校と異なった地域社会性を身につけさせることや、さまざま</p>

発 言 者	発 言 内 容
加藤部長	<p>まな体験をさせる等の目的があったと思うが、目的が薄れてしまい、親が負担にしか感じなくなってしまうので、見直しをしていく必要があると考える。</p> <p>それでは、議題の「子ども・青少年施策に係る事業の推進方向について」はここまでとさせていただく。</p> <p>こども支援部においては、本日の意見を踏まえて、入間市子ども・若者育成支援計画の策定にあたっていただくとともに、定期的に総合教育会議の中で進捗状況の報告をしていただきたい。</p>
加藤部長	<p>(2) 要保護児童対策について</p> <p>この議題については今年度第2回の総合教育会議で扱ったが、千葉県野田市で小学校4年生の女子児童が虐待により死亡した事件を受け、改めて協議をするものである。それでは、議題についてこども支援部と教育部から説明をお願いする。まずはこども支援部より説明願う。</p>
横田課長	<p>それではこども支援部の要保護児童対策について、資料に沿って説明する（資料4の1ページ及び2ページ並びに資料5の29ページから33ページを説明）。</p> <p>なお、資料4の2ページ「3 児童実態把握緊急調査について」にある野田市の事案を受けての緊急点検については、2月1日以降14日までに一度も保育所に登園していない児童は入間市では4名いたが、4名全てを確認できた。また、児童発達支援事業のサービスを同期間に利用していない児童についても全て面会でできた。</p>
鳥山部長	<p>児童虐待防止に関する5市連携について、資料に沿って説明する。（資料4の3ページから6ページの概略を説明）。</p>

発 言 者	発 言 内 容
加藤部長	続いて教育部より説明願う。
松本参事	それでは学校・教育委員会の要保護児童対策について、資料に沿って説明する。（資料３を説明）
加藤部長	ただいまの説明を踏まえ、議題について意見交換を行う。何か意見等あるか。
田中市長	家庭を訪問した際に親に子どもとの面会を拒まれ、子どもに会えなかったことはあるのか。
松本参事	訪問した際に、親が子どもに会わせたくても、子ども自身が心の問題で会いたがらず、こちらが子どもがこもっている部屋の前まで行って、子どもがそこにいることの確認はできるものの、実際に会うことができない場合がある。緊急点検の中でも、医師と相談しながら対応中なので会えない、という事例があった。
田中市長	従来、個人情報保護を気にするあまり、虐待についての連絡がはばかれる嫌いがあったが、関係機関内では連絡を取り合って、子どもの命を守ることを何より優先して対応してほしい。
西澤教育長	虐待をする親には心の病が潜んでいる場合があると思う。そういった場合は医師との連携によるケアができないと、なかなか解決ができないケースもあるのではないかな。
橋本委員	家庭訪問の際に、子どもへの面会を親に断られたら、もう家の状況を見

発 言 者	発 言 内 容
松本参事	<p>することはできないのか。</p> <p>スクールソーシャルワーカーが福祉部門と連携して面会したり、児童が小さいころから関わっている家庭児童相談員にお願いして対応してもらったり、といったことはある。しかし、家庭の中がひどい状況のために、どうしても人を入れたくないという親もいる。そういう場合は学校としては福祉部門にお願いをしていかなければならない。</p>
田中市長	<p>親がいったん虐待を始めたら、指導をされてもなかなかやめられず、やめるとは言ってもその言葉通りにやめるのは難しい場合もあるではないか。</p>
西澤教育長	<p>野田市のケースでは子どもが父親からDVを受けるのみならず、母親も夫からDVを受け、はけ口が子どもに向いてしまい、子どもに逃げ場がなかった。児童相談所だけで対応してもなかなか結論が出ない場合には、警察と一緒に動いて子どもを保護しないと難しいのではないかと。</p>
田中市長	<p>児童の虐待を発見した場合、児童相談所にはどこまでの権限があるのか。</p>
原嶋次長	<p>裁判所の許可がないと、児童相談所が強制的に立ち入ることはむずかしい。警察は、強制的に立ち入り一時的に警察署へ児童を引き取ることはできる。</p>
加藤部長	<p>野田市の事件を契機にそれぞれの立場で現在の対応を再確認して、さらなる対策に取り組んでいただきたい。それでは、この議題の協議を終了して報告事項に移る。</p>

発 言 者	発 言 内 容
加藤部長	<p>4. 報告事項</p> <p>(1) 「公共施設マネジメント事業計画」及び「市役所等整備計画」市民説明会の実施結果について</p> <p>総務部公共施設マネジメント推進課より説明願う。</p>
浅見課長	<p>「公共施設マネジメント事業計画」及び「市役所等整備計画」市民説明会の実施結果について、資料に沿って説明する。</p> <p>(資料6～資料8について説明)</p> <p>公共施設マネジメント事業計画に対する市民からの意見は、学校の統廃合に関するものが非常に多かった。その中でも豊岡第三地区（黒須・高倉地区）の小学校の統合について、宮寺・二本木地区の小学校及び保育所の統合について、及び西武地区の中学校の統合についての3か所に対する関心が高かった。まず、黒須・高倉地区の小学校の統合については、地域の中央に近いところに土地を確保して小学校を統合し、高倉小学校については、跡地をほかの公共施設に転用して、地域でも使ってもらえるようにする、という提案をした。この提案に対しては、この地域は土地の高低差があり、交通事情、通学距離に関する不安を持つ方、また、川に近いということで防災上の不安を持つ方が大勢いた。次に宮寺・二本木地区についても、地域の中央に近いところに土地を確保して小学校及び保育所を統合する、という提案をした。この提案に対しては、通学距離や国道16号線の危険性について不安を持つ方が多かった。パブリックコメントでは通学の不安を解消することを前提に賛成する意見が多く寄せられた。そして西武地区については、第一期に西武中の位置に野田中と西武中を統合する、という提案をした。この提案に対しては、これまで市は野田中学校の活用について説明をしてきたので、それが変わった理由や、統合の時期が早</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>い、ということについて疑問視する声が見られた。統合の必要性は感じるが、施設が新しくて人数も多い野田中学校に統合すべき、という意見、通学距離や安全性を考えてほしい、という意見、時期を延期してほしい、という意見が多く出された。現在はこれらの意見を踏まえ、庁内の最終調整を行っている。</p> <p>市役所等整備計画については、市役所は耐震補強のみで済ませるべきという意見が見られたが、反対意見は少なかった。また、市民会館については施設を使っている方から、現在の施設を残して活用してもらえるのは良かった、という意見をいただいている。この市役所等整備計画についても現在庁内の最終調整を行っているが、大きな方向性は変えずに進めていく。</p>
加藤部長	<p>ただいまの説明について質疑等あるか。</p>
高山委員	<p>公共施設マネジメントについては、総論は賛成でも各論に入ると反対という人が出てきたのではないか。特に学校の統廃合については、切実な問題としてとらえ、市民の間に浸透していったと思う。関心が高かった3か所については、どのような工程で進めていくか、十分に意見を聞きながらやっていく必要があると思う。資料7にある豊岡地区の5番目の意見に「市民には、行政サービスを平等に受ける権利がある。」とあるが、これは公共施設の統廃合により行政サービスが低下する地区が出てくることは合点がいかないということだろう。行政サービスについては地域による偏りが生じないことを説明できるようにしておいてほしい。</p>
加藤部長	<p>それでは、報告事項についてはここまでとさせていただきます。</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>5. その他</p>
加藤部長	<p>来年度の総合教育会議で扱ってほしいテーマはあるか。</p>
高山委員	<p>公共施設マネジメントについては進捗状況を引き続き報告していただきたい。</p>
加藤部長	<p>連絡事項として、事務局より、来年度の総合教育会議の開催について申し上げます。</p>
岩田参事	<p>来年度の総合教育会議は学校の学期に合わせることを目安に年3回の開催を予定している。これに加えて緊急の案件が生じた場合にはその都度開催する。次回の会議については、詳細が決まり次第連絡する。</p>
加藤部長	<p>6. 閉会</p> <p>以上で閉会とする。</p>
<p>議事のとん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。</p> <p>平成31年3月29 日</p> <p>市 長 の 署 名 田 中 龍 夫</p> <p>教 育 長 の 署 名 西 澤 泰 男</p>	